

ヒコの新聞と錦絵新聞

来年(2014年)は、播磨町出身のジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)が、元治元年(1864年)に日本で最初の邦字(日本語)新聞を発行してから150年目を迎えます。
 そこで、今年は幕末にヒコが発行した新聞と、明治初めに発行され新聞の普及に大きな役割を果たした錦絵新聞を一同に展示し、ヒコの新聞発行への熱き思いや錦絵新聞の美術品としての価値とその世相を反映した内容のおもしろさに迫ります。

展示の見どころ



●ヒコが発行した「新聞誌」
 ヒコが、最初に発行した「新聞誌」第1号を展示します。特に、幕末の新聞は和紙を使っていたので両面印刷ができず、木版で刷って二つ折りにした冊子型で、現在の新聞とは大きさも形も随分異なります。

▼開催期間
10月5日(土)～12月1日(日)

▼時間
 午前9時30分～午後5時
 月曜日休館

(祝日の場合は翌日休館)

▼場所
 郷土資料館 展示室
 郷土資料館
 問合せ 079(435)5000



●錦絵新聞の誕生
 明治5年、東京で東京日日新聞が創刊されましたが、漢文を多く用いた難しい文体で、その上購読料も高かったので庶民には縁のないものでした。しかし、明治7年に発行された東京日々新聞は錦絵で描かれ、ふりがなもうたれていたので庶民の関心を集め、瞬く間に広がっていきました。「東京日日」の記事をもとに錦絵新聞「東京日々」が発行されていますが、記事の内容をわかりやすく紹介していますので、見比べながらご覧ください。

特別展記念演奏会

琵琶弾き語り
 「ジョセフ・ヒコ物語」
 琵琶奏者として有名な川村旭芳さんが書き下ろしたヒコの波乱万丈の物語。
 ▼日時 10月14日(祝) 午後1時30分～3時
 ▼場所 兵庫県立考古博物館 講堂
 ▼出演 川村旭芳(筑前琵琶奏者)
 ▼定員 先着150人

展示解説会

▼日時 開催期間中の毎日曜日 午後1時30分～2時
 ※団体などで解説を希望される方は、ご相談ください。



●錦絵新聞の流行
 東京日々新聞に対抗するかのように出版されたのが、郵便報知新聞の錦絵新聞です。「東京日々」が赤の囲み枠なのに対し、「郵便報知」は紫の囲み枠を採用しています。

ヒコの似顔絵・イラスト大募集



2014年、ジョセフ・ヒコ新聞発行150周年に先立ち、ヒコの似顔絵・イラストを募集します。

- ▶応募期間 10月1日(火)～12月12日(木)(ヒコの命日)
- ▶応募対象 幼児・小・中学生の部 一般の部
- ▶応募方法 1人1点(A4サイズの用紙のみ)
 ※郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、連絡先(電話番号)、学校園(所)名を明記の上、播磨町ふるさとの先覚者顕彰会事務局(播磨町郷土資料館内)まで持参または郵送してください。
- ▶選考方法 播磨町ふるさとの先覚者顕彰会役員などにより選考
- ▶選考発表 広報はりま2月号、資料館ホームページなど
- ▶賞 最優秀賞(5万円+副賞)、優秀賞(1万円)、佳作など
 ※学生の部は図書カード
- ▶その他 入選作品の著作権は、播磨町ふるさとの先覚者顕彰会・資料館に帰属します。応募作品の返却はいたしません。入選作品は、ジョセフ・ヒコの普及・PR活動に使用します



●関西へ飛び火した錦絵新聞
 東京での錦絵新聞の流行は、翌年大阪に飛び火し、東京の2倍近い点数が発行されました。東京がB4大の大判であったのに対し、大阪はその半分の大きさで、価格も安価なものでした。さらに、東京が文章を書く筆者と絵を描く絵師が完全分業だったのに対し、大阪では7割が筆者と絵師を兼ね、事件が起きると取材に出かけていました。新聞もリアリティに富み、迫力のある絵が描かれていたのでしょうか。観覧してお確かめください。